

民家の再生 説明文

19T5061D 和田一樹

旧越家住宅は主屋と2つの土蔵からなる明治の豪壮な建物である。本計画では6人家族が暮らす住宅としながら民泊者を受け入れ、かつ地元住民との交流の場となる施設として再生した。具体的な提案として、まず増築により町屋の立面を生み出した。これは旧越家住宅を通りに対して開いた建築にすることで、須坂の町屋の景観と調和することを目的としている。1階のカフェでは、庭を眺めながらゆったりとした時間を過ごせる。二つの土蔵は2階床を取り払い、防湿・防水処置を施し、接続することで銭湯として再生した。民泊者と地域住民の交流の場をもたらすとともに、土蔵の活用の可能性を広げた。また3室続きの座敷は、1室を民泊者の部屋、2室を銭湯利用者の休憩所として有効活用することで、既存の姿を保存した。平面については、土間を上手く取り入れてプライベートとパブリックを分け、住宅と公共施設の機能を両立させた。今回の設計では、民泊体験を通して地域や歴史に深く触れる場をつくることを大切にしたい。この建築がまちに寄り添い、長く引き継がれていくとともに、須坂は魅力的なまちであると多くの人に認識してもらおうきっかけになることを望んでいる。